

Showa Denki Group

2019 Round.6 Okayama International Circuit



J-GP2 #71
Ikuhiro Enokido

ST600 #71
Daiki Uehara

JP250 #71
Kiyoshi Akama

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

■SDG Mistresa RT HARC-PRO. Media Infomation 2019 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第6戦 SUPERBIKE RACE in OKAYAMA

開催日：2019年8月31日(予選) 9月1日(決勝)
岡山県・岡山国際サーキット (1周=3.703km)
観客動員数：7,600人 (2日間合計)

J-GP2 クラス #71 榎戸 育寛

マシン：HARC-PRO. HP6-q タイヤ：BRIDGESTONE
予選：3番手 (タイム：1分32秒100)
決勝：優勝

ST600 クラス #71 上原 大輝

マシン：Honda CBR600RR タイヤ：BRIDGESTONE
予選：17番手 (タイム：1分33秒978)
決勝：20位

MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清

マシン：Honda CBR250RR タイヤ：DUNLOP
予選：19番手 (タイム：1分48秒192)
決勝：DNF



弊社広報社員ライダー

J-GP2 クラス #634 名越 哲平 (写真中央)
J-GP2 クラス #71 榎戸 育寛 (写真右)
ST600 クラス #71 上原 大輝 (写真左)

昭和電機グループは、社会貢献の一環としてモーターサイクルスポーツ活動を支援させていただいております。また、未来を見据えた活動の一環として、上記の3名のライダーを昭和電機グループ正社員に採用しております。



弊社社員ライダーの名越哲平は5位。ランキングトップを維持！
■名越 哲平 J-GP2 class 第5戦 岡山国際 レース結果
予選：2位 決勝：5位



昭和電機では2018年度から、全日本ロードレースをより一層盛り上げるべくチームやメーカー、クラスを越えて各クラスのセクشنナンバーが「71」のライダーとチームを応援する「71プロジェクト」を発足し、様々な応援活動を行っております。

<http://mistresa-71.com>



【71Project Riders】

■JSB1000 #71 TK SUZUKI BLUE MAX
Takuya Tsuda

■J-GP2 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Ikuhiro Enokido

■J-GP3 #71 Team P.MU 7C MIKUNI
Akito Narita

■ST600 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Uehara Daiki

■JP250 #71 SDG Mistresa RT HARC-PRO.
Kiyoshi Akama

■JSB1000 #12 YOSHIMURA SUZUKI MOTUL RACING
Executive Adviser Yukio Kagayama

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

2019 Round 6 Okayama International Circuit

J-GP2 #71 Ikuhiro Enokido ST600 #71 Daiki Uehara JP250 #71 Kiyoshi Akama



榎戸育寛が波乱のレースを制し今季2勝目！タイトルも射程圏内に！！



全日本ロードレース選手権は、約3カ月のインターバルで迎えたシリーズ第6戦岡山ラウンド。岡山国際サーキットで、この時期の開催は初めてとなり、気温差などコンディションの違いがどう影響するかがポイントの一つとなっていた。

SDG Mistresa RT HARC-PRO. のライダーたちは、インターバルの間、トレーニングを重ね、シーズン後半戦に備えてきた。前週に行われた公開テストでは、榎戸が連日のトップタイムをマークするものの転倒もあり、マシンセットも今ひとつ詰め切れないままだった。

レースウィーク初日は朝方まで降っていた雨の影響で1本目はウェットコンディション。雨は降っていなかったが、すぐに乾くことなくレインタイヤでの走行となっていた。2本目は、ドライコンディションの中、榎戸は、ただ一人1分31秒台に入れる1分31秒907をマークしトップタイム。セッション終盤に雨が降ってきたが、そこで、どんな状況になるのか確認していたことが、レースにも役立つ結果となっていた。

ST600クラスは、今回48台が出走という激戦区。A組、B組と2グループに分かれてセッションが行われ上原は、B組の出走となった。公式予選もST600クラスのみ20分のセッションを2本で行われ、ほとんどのライダーが1本目にベストタイムを記録。上原も1分33秒台に入れ組11番手、総合では17番手に着けた。



ST600 #71 Daiki Uehara

J-GP2クラスの公式予選は、35分1セッションで行われ、榎戸は、ポールポジションを狙っていたが不発に終わってしまう。それでも3番手とフロントロウを確保。決勝レースでの巻き返しを誓っ

ていた。MFJ CUP JP250を戦う赤間清は、金曜日の1本目は濡れていたためキャンセル。2本目から走り始め公式予選では、自己ベストを更新する走りを見せた。

快晴だった土曜日とは打って変わり日曜日は朝から雨がバラつく不安定な天候だった。朝のウォームアップ走行も路面を濡らすほどではなく、ドライタイヤで走行。ここで榎戸はトップタイムをマークし、決勝に向けて気合いを入れていた。

この日、2レース目となったJ-GP2クラス決勝。雨がバラつく中、全車スリックタイヤでスタートが切られる。榎戸は、まずまずのスタートを見せ3番手で1コーナーに入ると、ヘアピンで1台をかわし2番手に浮上。トップを走る作本選手を追う。雨はポツポツと降り続けている中、レースは進んで行くが、4周目の1コーナーにトップがさしかかったときに雨が急に強くなり目の前で作本選手が転倒。榎戸は接触しそうになったが何とか回避。赤旗が提示され、レースは12周で仕切り直しになった。

J-GP2 #71 Ikuhiro Enokido



雨は降り続き、路面はウェットコンディションとなり2度目のスタートが切られる。榎戸は2番手で1コーナーをクリアすると、バックストレートでトップに浮上しレースをリード。このペースに岩崎選手のみが付いて来たが、レース終盤にスパート。10周目にファステストラップをマークすると一気にトップ独走状態に持ち込む。最後まで攻めの走りを見せた榎戸は、そのままチェッカーを受け今シーズン2勝目をマーク！暫定ランキングでは、3番手と変わらないが、トップの名越選手に4ポイント差に迫り、シリーズチャンピオンを射程に捕らえた。

ST600クラスのレースが始まるころには、雨は止んでいたが路面はウェットでスタート。上原は好スタートを切るが、1コーナー立ち上がりでハイサイドになり、あわや転倒という場面だった。何とか持ちこたえるが、大きく順位を落としてしまう。そこから追

い上げを見せ、最後は3台による19番手争いとなり20位でゴールし貴重なポイントを獲得した。

土曜日にドライコンディションで行われたJP250。スタートは悪くなかった赤間だったが、目の前で転倒があり、これを回避するために順位を落としオープングラップは24番手。そこから1台、また1台と順位を上げて行っていたが、7周目のダブルヘアピンを立ち上がると急にエンジンがストップしてしまう。そのまま惰性でホームストレートを通り、マシンを止めた。



JP250 #71 Kiyoshi Akama

■榎戸育寛コメント

「応援してくださった皆さんのおかげで2勝目を挙げることができました。チームとは、天気予報を見ていて、雨が降ることを予想していたので、赤旗が出た際、雨よりのセットに変えようと言っていました。迅速に対応してくれたので、自信を持って攻めることができましたし、この2勝目はチームの皆さんの力が大きかったと思います。この調子で残り2戦も戦っていきますので、引き続き応援よろしくお願いたします」

■上原大輝コメント

「ウェットだった金曜日の1本目で4番手になりましたし、ウェットコンディションには自信があったのですが、レースは、うまく走ることができませんでした。スタートはうまく決まったのですが、1コーナー立ち上がりでハイサイドになってしまい遅れてしまいました。すごく難しいコンディションだったので、そこから抜いて行くのも時間がかかってしまいました。この経験を活かして次戦は、さらに上を走れるように改善していきたいですね」

■赤間 清コメント

「今年のベースセットを金曜日から岡山に合うようにセットアップしてきました。公式予選では、自己ベストを0秒8更新することができ、レースでも、さらにタイムを詰めていこうと思っていました。このインターバルでトレーニングしてきたこともあり、身体もいい感じに動くようになっていたので、レースですらいい走りができると思っていたので突然の電気系トラブルは残念でした。次戦は、しっかりゴールできるように準備します」



このリリースのお問い合わせは
昭和電機株式会社 マーケティング統括部まで